

カイガラムシの防除を徹底しましょう！
～重点防除期間～
6月21日（土）～7月28日（月）

■フジコナカイガラムシの防除対策

フジヨナカイガラムシ第一世代のふ化ピーク予測(南信農業試験場)

標高400m 6月19日

標高560m 6月25日

標高680m 6月27日

防除のポイント

◆ 防除適期の目安

1 回目：ふ化ピークから一週間以内（標高 400～500mは 6 月 21 日頃、500m 以上は 6 月 28 日頃）

2回目：ふ化ピークから約4週間後（標高400～500mは7月19日頃、500m以上は7月26日頃）

◆十分な薬液量をムラなく散布！

粗皮のすき間、へた下、葉の重なった果実表面など薬液が届きにくい場所に多く寄生するため、十分な薬液量でムラなく丁寧に散布しましょう。散布前に徒長枝を整理しましょう。

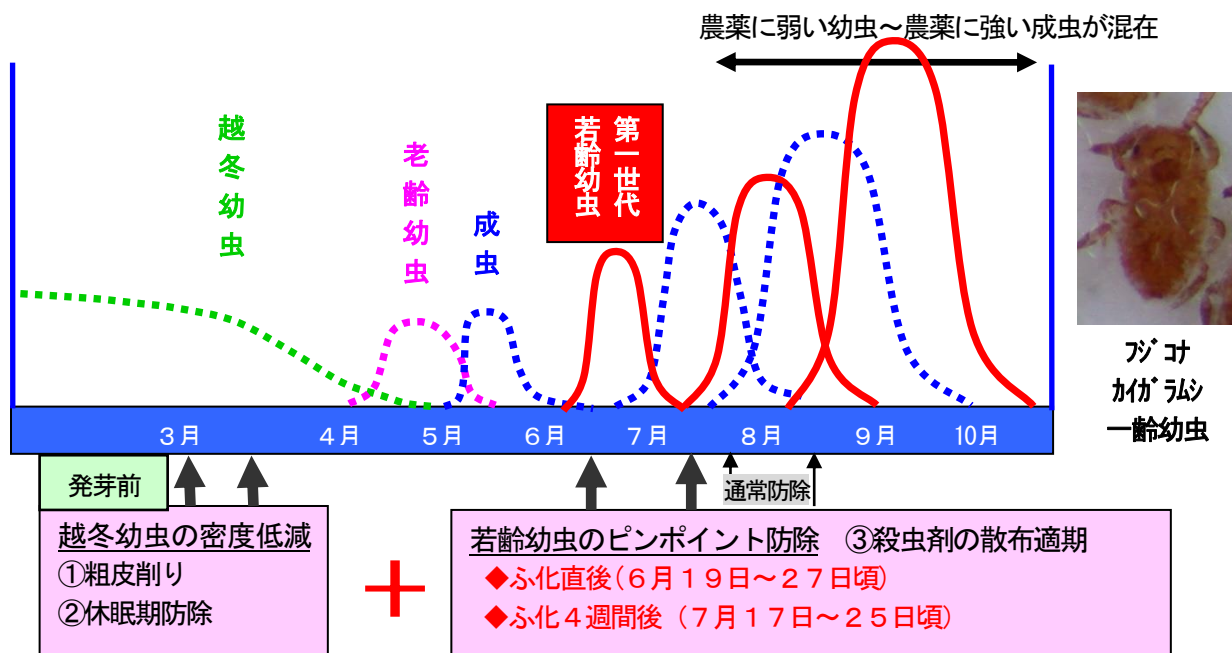


図 フジコナカイガラムシの発生消長（イメージ）

(参考) かきのカイガラムシ類(ナガカガラムシ)に対する登録農薬の一例

(令和7年6月1日JPP確認)

農薬名	使用濃度	使用回数	使用時期	使用方法	使用量	備 考
トクチオン乳剤	1,000 倍	2 回以内	収穫 75 日前まで	散布	10a あたり 200L~700L	有機リン系 (IRAC : 1B)
サイアノックス水和剤	1,000 倍	3 回以内	収穫 45 日前まで			有機リン系 (IRAC : 1B)
モスピラン顆粒水溶剤	2,000 倍	3 回以内	収穫前日まで			ネオニコチノイド系 (IRAC : 4A)

※モスピラン顆粒水溶剤は蚕毒が特に強いので桑畑付近で使用しない。

※使用の際はラベルの記載内容をよく読み、最新の登録内容を確認する。

※サイアノックス水和剤は次年度使用禁止になりますのでご注意ください。

■円星落葉病の防除対策

- ・円星落葉病の子のう胞子は、前年の落葉から5月末～7月上旬にかけて飛散します。
- ・感染は6月～7月に起こりますが、病徴（葉に病斑）が現れるのは秋になってからです。
- ・発病してからの対応はできないので、6月の感染時期に防除を行う必要があります。

防除のポイント

◆防除時期

子のう胞子は、通常5月下旬から7月下旬にかけて飛散します。（下図）
フジコナカイガラムシの防除と同じ6月下旬と7月中下旬を重点防除期間として防除を実施しましょう。

◆使用薬剤（下表）

病斑形成阻害効果（感染後にも効果がある）の高い薬剤で防除をおこないます。耐性菌の発生を抑制するため、スコア顆粒水和剤の使用は年1回とします。

◆秋に落葉処理をする

円星落葉病の伝染源は前年の落葉です。落葉は埋設または土壌にすき込み、翌年に伝染源を持ち越さないようにしましょう。



円星落葉病病斑



多発園の様子(10月上旬)

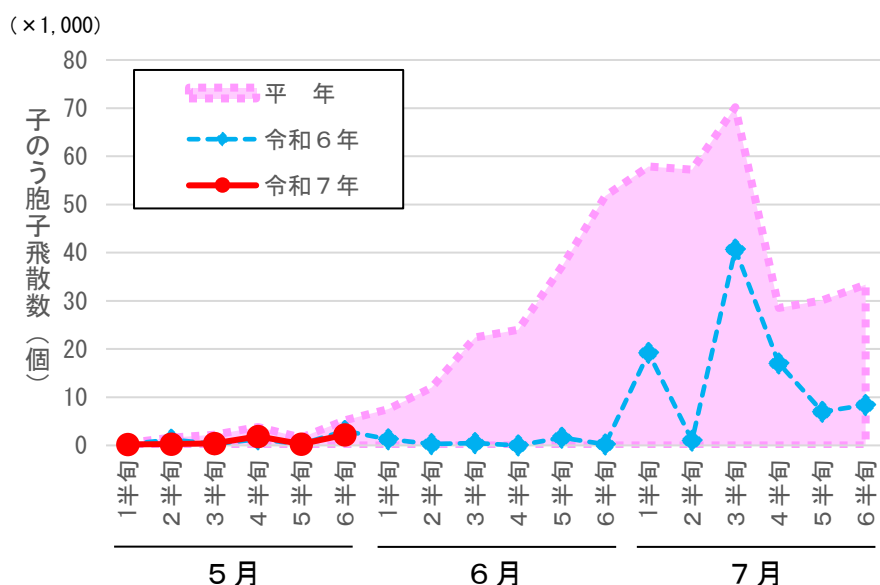


図 円星落葉病の胞子飛散の推移（南信農業試験場データより）

（参考）かきの落葉病に対する登録農薬の一例

（令和7年6月1日JPP確認）

農薬名	使用濃度	使用回数	使用時期	使用方法	使用量	備考
スコア顆粒水和剤	3,000 倍	3 回以内	収穫前日まで	散布	10a あたり 200L～700L	DMI 剤 (FRAC : 3)
ジマンダイセン水和剤	600 倍	2 回以内	収穫45日前まで			マゼブ (FRAC : M3) (IRAC : UN)
オーソサイド水和剤80	1,000 倍	5 回以内	収穫7日前まで			キャブタ (FRAC : M4)

※使用の際はラベルの記載内容をよく読み、最新の登録内容を確認してください。